

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 麻生鳥のさえずり公園

第 20 号 2008 年 3 月 31 日発行 発行 ; 麻生多摩美の森の会
発行責任者 ; 勝田 政吾 編集者 ; 木村 信夫

今年度を振り返って

会長 勝田政吾

平成 19 年度を振り返って、活動に寄与した一番の出来事は、前年度末に完成した管理棟(多摩美の森の家)の本格的稼働だと思います。設置経緯や利用法等については会報 16, 17, 18 号で説明されていますが、設置準備委員会が大層骨を折られて、設備内容・管理規定・運用方針等について研究と論議を重ね、第 5 回総会で関連する会則の改訂も行われ、現在は管理運営委員会によって順調に運営されています。珍しいバイオトイレも昨夏の酷暑に耐え、作業日限定の使用ですが、健康の森らしい設備だと思っております。

管理棟は、会議や打合せ、屋内作業、展示、記録類の保管、さらには屋外作業時でも集合場所があるという安心感も含め、「活動拠点」の言葉がぴったりの施設となっています。

次に、藤棚は平成 14 年に早野聖地公園ボランティアグループの多大なご協力で建てられたもので、作業日の打合せや休息場所、散策する方々の憩いの場として、ここの森の象徴的な場所となっています。その柱の根元が虫害で腐朽が進み、北部公園事務所に相談したところ、防腐処理をした立派な柱に付け替えていただき、大変有難いことでした。当分は小拠点として問題なく使用でき、今年か来年には藤も花を咲かせてくれることでしょうから、また一つ魅力が増えることになりそうです。

ヤマユリの植栽は植付け 3 年目となり、前年からの開花に続いて、さらに数多くの花が見事に咲きました。今後はどうやって毎年咲かせ続けるかに力が注がれると思います。2

年前の植樹祭で通路沿いに植えた萩が昨秋は見事に咲いて可憐な風情を楽しませてくれました。畑の縁に植えた和紙原料木ミツマタも 3 月に黄色い花を咲かせ麦の緑とよくマッチしています。一昨年から収穫をみた栗もますます大きな実をつけるようになっていきます。

植樹・収穫祭は、会報 19 号の報告のように、「市民健康の森」を会場に、現場で里芋を茹でたりバウムクーヘンを焼いたり、里山の幸を皆がいっしょに作り楽しむ方式を取り入れました。担当の方々は大変でしたが、新機軸で成功だったと思います。天候はもう一つでしたが、見学者も多く訪れて、大盛会でした。

小学校の総合的学習への協力は例年通りでしたが、別掲の記事のように、ここの森で自然や環境を学んだ子どもたちの感想文には、私たちも励まされるものがあります。ゆとり教育の見直しもあって環境はよくありませんが、今一步踏み込めないものかと思っております。

私自身は別掲の開発問題でかなりの時間と精力を費やしました。本来の活動とは違うという向きもありますが、ここ麻生多摩美の森自体、そうした運動により確保されたものであり、直近にあのような無茶な計画が実行されたら会の活動にもかなりの影響が出たと思います。不満足ながら 3 分の 1 の緑地が確保できたことは本当によかったと思っています。

西生田小5年生 「森で環境学習」実施される 副会長 長澤

麻生区西生田小学校5年生167人の環境体験学習が、麻生区市民健康の森で、12月17(月)、18日(火)(各9:45~12:00)に実施されました。

1日目は1~3組の約100名、2日目は4、5組の約70名と、2回に分けて実施。学習内容は 樹木の大切さと役割、当森の会の活動、 森の冬の写生、落葉かき、樹木の二酸化炭素吸着量測定。当会会員10名弱が指導に当たりました。

1. 緑の大切さなど 平林副会長(約30分)

落葉と常緑、広葉と針葉など樹木の特徴と役割、生命の循環、地球の温暖化問題と二酸化炭素量の増加などについて、過去と現在、イースター島の歴史などをまじえて、緑の大切さや将来に向けての取組みについて、お話をした。

2. 森の冬を写生しよう(20分間)

森の冬の特徴を見つけ写生しよう。落葉した木の姿や、冬芽を中心に、児童それぞれ思い思いの作品が出来上がった。

3. 落葉かきで堆肥を作ろう(20分間)

木々の落葉は堆肥にして森の小さな島の肥料に使います。子どもたちは落葉を集めて袋に入れ、大きな穴に落とし込んで踏み固め、米ぬか、土、水をやって、何層にも積み上げた。大半の子供たちは初体験で、印象深く記憶されたようだ。

4. 樹の二酸化炭素吸着量の測定(40分間)

8名前後の班に分かれ、森の樹木3本の幹周を測定し、葉面積 x 吸着指数=二酸化炭素量(kg/年)を算出し、人間の排出CO₂何人分に当たるか換算した。足場の悪い中協力して、メジャーで測り、電卓で計算、まだ学習していない分数計算も行った。感想文を書き環境調査表を完成させた。

5. 結果発表と二酸化炭素の学習(30分間)

班別に発表を行った。樹木が二酸化炭素を吸収する事は知っていたが、その量や何人分かの大きさに驚いている。観測途中での指導員のコメントが心に響いているようだ。今後は緑を大切にまた二酸化炭素削減に努力しようとの気持ちが高まったようだ。

最後に、二酸化炭素の特徴、発生源や活用例と、一酸化炭素の猛毒性について話をして講座を終了した。

子どもたちからのお礼の手紙

5年生全員から、お礼の便りをいただきました紙面の都合上その一部を紹介します。
* 多摩美の森のみなさん、今回は、環境について、話し・つきそいをさせていただきありがとうございました。多摩美の森のみなさんに、わかりやすく、説明をしていただいたので私達は楽しく多摩美の森で調べられました。二酸化炭素を木がどれだけ吸収しているのかよくわかりました。あのように計り計算する事は、知らずビックリしました。落葉集めもすごく楽しかったです。知らないことだらけです。私が調べた木3本は、人間が12人残れるという結果でした。「二酸化炭素もへらして行かないと」って思いました。一酸化炭素がもう毒だったなんて知りませんでした。みなさん今日は、ありがとうございました。(K・Kさん)
* ぼくは緑が大切だと、あまり強くは思っていないませんでした。しかし、多摩美の森の会の人達のおかげで、緑は生き物などが生きていく中ですごく大切な事だと改めて思うことができ、この事をこれから将来絶対に忘れないようにしていきたいなと思いました。勝田さんみたいに外国にいった木を植えてきたことがすごいなと思い、木を植えてみたくなりました。多摩美の森の会の人達と勉強するのがとても楽しくて、説明もわかりやすくて一日楽しかったです。またどこかで会ったら、緑の大切さなどもう一度教えてください。(S・Yくん)



三つのフォーラム報告

副会長 平林謙三

年度末に開かれ当会が参加したフォーラムのうち、主な三つについて報告します。

2008 川崎市市民健康の森フォーラム
ラゾーナ川崎プラザ5階「プラザソル」
2月14日(木) 11:00～15:30

今年の当番は川崎区。足利工業大学副学長牛山泉先生の「森と風とエネルギー」と題する 基調講演の後、7区の健康の森の活動報告を行い、最後に懇親会で締めくくりました。川崎駅に隣接するラゾーナ川崎は、各種設備を備えたモダンなモールです。

第6回市民自治創造かわさきフォーラム
川崎市立土橋小学校体育館 3月1日(土)
12:30～17:00、2日(日) 10:00～16:00

今年のフォーラムは、みやまえ区民フォーラムと共催。西城秀樹トークショーほか、15のセクションに分かれて様々な行事が行われました。当会は「みやまえ区民フォーラム運営委員会」主催の「みんなで考えよう：輝け生命！！みどりの回廊ネットワークづくり」の花とみどり7区ポスターセッションに出展、説明を行いました。

2008 里山フォーラム in 麻生
麻生市民館大会議室 3月15日 13:00～17:00

地元伝統芸能（今年は白山神社おはやし保存会）で始まり、トトロの森ふるさと財団常務理事岡本俊英氏の基調講演「次世代に引き継ぐ自然と文化～トトロの森から」に続き、麻生・金程・千代ヶ丘小学校の小学生の活動報告、および麻生にプレーパークをつくらう、多摩美の森の会と子ども達、岡上のNPO自然と共生の会の活動、柿生のまちはミュージアム遊歩道ファンクラブの活動の4報告とフロアトークを行いました。最後にポスターセッション、写真展表彰、地元農産物料理の会食と盛り沢山の行事に150名が集まる盛会で、阿部市長も始めから終わりまで出席されました。

遊歩道沿い開発問題の結果報告

会長 勝田政吾

前号会報で報告しましたように、多摩自然遊歩道沿い緑地の保全に関する陳情は、10月26日の市議会環境委員会で全会一致趣旨採択となりました。これを受けて我われ陳情者側は、緑政部には全面取得を、まちづくり局には事業者の指導を働きかけてきました。しばらく膠着状態が続いていましたが、12月に入って両局の担当から話があり、計画が大きく変わったので事業者から聞いてほしいとのことでした。そこで年末に説明を受けましたが、かなり変更がなされていました。

図面の当初計画と変更後計画から分かるように、遊歩道沿いに約6m幅の緑地（斜線部）が残る上、域内を貫通する6m道路がなくなり4.5m幅の行き止り道路になりました。経緯の説明は長くなるので省略しますが、どれも運動の中で掘り出された事実から当初計画の実現が困難になったためで、運動の成果と言えます。残される緑地面積は527㎡で、当初破壊される予定だった1584㎡の33%強に当たります。この案を持ち帰り陳情各団体の代表者に計った結果、現在の情勢下では成果ととらえて受け入れることとなりました。



当初計画



変更後計画

竹炭焼き報告 データづくりに挑戦

大滝恒夫

これまでの竹炭作りでは完璧な成功がなかった。そこで今回は初心に戻り「竹炭の作り方」の本で勉強するとともに、科学的な基礎データをとって今後の資料とすることを目指して、中谷一郎リーダーと打ち合わせて実施した。科学的基礎データとは、(1)炭焼き工程における温度の推移と、(2)窯の密封度を向上させるため陶器用粘土の試用である。

寒い日が続いた今年だが、炭焼き当日の2月23日の朝は暖かく、作業を9時に開始。準備が整い10時に2台の窯に勝田会長、平林副会長が点火した。その後、煙突出口の煙温度と窯自体の温度を測定、記録した。13時には、ドラム缶外面の温度が160～170に上昇。窯の中の竹材が明らかに燃え始めたので焚き口で薪を燃やすのを止め、さらに焚口を約半分に塞いで空気の供給を少なめにした。

17時35分に、焚き口を完全閉鎖すると同時に煙突も粘土で塞いで、窯を密封状態にして、翌日を楽しみにして帰宅した。

翌24日は10時に集り、はやる気持ちを落ち着けながらドラム缶の掘り出し作業の後、焚き口から中を覗いた。2台の窯とも竹炭が「黒光りして黒いダイヤ」のように見え、成功を喜び合った。しかし、ロストル上の一部の竹に生焼けのものが認められ、まだまだ完璧ではなかった。反省点は、ロストル上には乾燥した竹を、細く割って詰めること、空気の遮断が早すぎたようなので窯の温度を今回より長く保つこと、など。これらの経験と温度測定データを次年度以降に活かしたい。



今後の活動予定 副会長 平林謙三

温暖化が進み、寒暖の揺れが激しくなってきました。これからどんな春が来るのでしょうか。今後の活動日と作業予定は、正式には4月27日(日)の第6回通常総会で決まりますが、次のように予定しております。

原則は毎月第1土曜日と第3日曜日、当日が雨の場合は1週間後となります。また、第2・第4水曜日を補助作業日とし、必要に応じて作業を行います。作業時間は10月1日から6月30日までは原則として10時～12時、7月1日から9月30日までは原則として9時～11時です。

4月5日(土) 草刈り、苗木・畑の手入れ

4月20日(日) 草刈り、苗木・畑の手入れ

4月27日(日) 16:00～麻生多摩美の森の会

第6回通常総会 区役所4階会議室

5月3日(土) 草刈り、苗木・畑の手入れ

5月18日(日) 麦刈り、畝立て、サトイモ・

サツマイモの植付け、大豆の播種

6月7日(土) 麦の脱穀

6月15日(日) 草刈り

7月5日(土) ソバの播種

7月20日(日) 草刈り

補助作業日は4月9、23日、5月14、28日、6月11、25日、7月9、23日です。

会員募集中です 貴方も仲間に

緑に包まれて森づくり、親子いっしょの作業や自然体験も楽しい。どなたでも加入できます。年会費1000円。体験参加も歓迎。上記の活動日において下さい。

麻生区のホームページで、市民健康の森を紹介、本紙のバックナンバーも見られます。
<http://www.city.kawasaki.jp/73/73tis/in/miryoku/sanka/mori.htm>

皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

問合せ、連絡先

勝田政吾 044-966-7409

木村信夫 044-954-7855

kimura-yatsu@nifty.com